

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和元年度)

施設の名 称	宮城県こもれびの森森林科学館
指定管理者の名 称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
施設所管部 課(室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成20年 4月 ~ 平成23年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会	
平成23年 4月 ~ 平成28年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会	
平成28年 4月 ~ 令和 3年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名 称	名 称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
	所在地	宮城県利府町神谷沢字広畑6-40
指 定 期 間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名 称	宮城県こもれびの森 森林科学館	
所 在 地	栗原市花山字草木沢角間10-7	
設 置 年 月	平成5年4月	
根 拠 条 例 等	県民の森等の設置及び管理に関する条例	
設 置 目 的	森林や自然環境に対する県民の関心の高まりと、自然とのふれあいを求める人々が増加してきている中において、「こもれびの森」は、スギ等の人工林とともに樹齢200年以上のブナ・ミズナラの自然林があり、また多くの動植物が生息・生育する豊かな森林である。 森林科学館は、このような「こもれびの森」を背景にして、自然環境や森林・林業についての正しい知識・仕組みを学ぶための学習機能と森林レクリエーション機能を併せ持つ、県北の拠点施設として設置された。	
施設の内 容	敷 地 面 積	森林科学館等541.91㎡, 湿性植物園等12,987㎡
	構 造	森林科学館:木造平屋, 湿性植物園:池及び観察路等
	内 容	森林科学館(ネイチャークラフトコーナー、テレビモニター等の設備) デイキャンプ施設(広場, 野外炊事場, 野外便所) 湿性植物園 山菜・薬草見本園
開 館 (所) 日	4月1日~11月30日(開館期間中は無休)	
開 館 (所) 時 間	午前9時~午後4時30分(4月~9月), 午前9時~午後4時(10~11月)	
指定管理者が行う業務の範囲	(1)森林科学館等の運營業務に関すること (2)森林科学館等施設の維持管理業務に関すること (3)施設利用に関すること (4)入園者の拒否等	
利 用 料 金 制	採用の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	入館料は無料。ネイチャークラフト体験、炊飯棟プロパンガス、石窯使用料は実費を徴収。

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数					
項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和元年度) (A)	前 年 度 (平成30年度) (B)	評価対象年度 (令和元年度) (C)		
開館(所)日数	244 日	244 日	243 日	99.6%	99.6%
延べ利用者数	5,000 人	5,270 人	4,747 人	94.9%	90.1%
(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。					
(2) 延べ利用者数の内訳					
項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和元年度) (A)	前 年 度 (平成30年度) (B)	評価対象年度 (令和元年度) (C)		
こもれびの森	5,000 人	5,270 人	4,747 人	94.9%	90.1%
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
合 計	5,000 人	5,270 人	4,747 人	94.9%	90.1%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入 (単位:千円, %)					
項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和元年度) (A)	前 年 度 (平成30年度) (B)	評価対象年度 (令和元年度) (C)		
県指定管理料	7,987	7,987	8,060	100.9%	100.9%
利用料金収入	0	0	0	-	-
その他(自主企画収入)	370	451	343	92.7%	76.1%
収入計 (a)	8,357	8,438	8,404	100.6%	99.6%
(2) 支出					
人件費	5,240	5,159	5,195	99.1%	100.7%
施設管理費	1,156	1,107	1,103	95.4%	99.6%
事業運営費(-租税公課)	1,590	1,871	1,642	103.3%	87.8%
その他(租税公課)	371	500	446	120.2%	89.2%
支出計 (b)	8,357	8,453	8,386	100.3%	99.2%
(3) 収支					
収 支 (c)=(a)-(b)	0	-15	18	-	-120.0%
前期繰越収支差額	24	39	24	100.0%	61.5%
次期繰越収支差額	24	24	42	175.0%	175.0%
自主事業の収支実績	収入	支出	収 支	備 考	
	343	252	91	自主事業に係る資材費・保険料等	

6. 評価対象年度(令和元年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	県の評価 【施設所管課記入】		
			評価	評価	
①管理運営体制	ア)管理運営方針に基づき、施設の管理と運営を適切に図ることに留意した。 イ)日々の開館準備作業と閉館作業は確実に 行うことができた。 ウ)園内の整備や館内の清掃を日常業務として 行った。このため、作業の効率化と円滑化 を図り、施設の維持管理に努めた。	ア)開館期間中のみならず、冬期休館中の施設 管理も適切に行うことができた。 イ)開館期間中は二人勤務体制をとり、来館 者への対応のほか、作業の円滑化が図れた。 ウ)管理運営に関する情報の共有化を図る ため、業務日誌の活用と全職員によるミー ティングを適宜行うことができた。	A	開園時は昨年と同様常時2人体制としたこと から来客対応や管理体制も充実し、事業 計画に基づいた適切な管理運営体制であつ たと認められる。 また、冬期間の閉館期間も含め安全管理 や注意喚起などの臨機への対応に努めてお り、十分な体制で管理されている。	A
人員体制	正規 5 人 非正規 2 人				
②施設・設備の維持 管理業務の実施	ア)園内の整備と館内の展示物整備等は計画 に基づき定期的に実施し、また軽微な管理 は日常業務の中で行うことにした。 イ)毎月1回、全体作業日を設定して、池の 清掃・敷地内の整備を行った。 ウ)法令により義務付けられた点検作業は、 管理業務計画に基づき、委託業者により適 切に行った。	ア)昨年度の館内のリニューアルによってでき た新たな展示スペースを有効に使いさらに 充実した展示ができた。 イ)軽微な破損箇所については、補修、修理 など迅速な対応をした。 ウ)来館者の安全と安心の確保を第一に、館 内と園内の整備ができた。 エ)冬期休館中も巡視を定期的に行い、施設 の管理を適切に行うことができた。	A	リニューアルした機器の利用と管理も含め 年度事業実績報告などから、施設等の維持 管理が適切に実施されたものと認められる。	A
③運営業務(ソフト 事業等)の実施	ア)施設のPRに努め、パンフレットやイベント チラシを近隣の温泉施設・道の駅等に配布 した。 イ)国立花山青少年自然の家、栗原市ジオ パーク推進室との連携を図り、情報交換と当 施設の利用促進を図った。 ウ)今年度から自転車ツーリング大会「ツール ド一泊」の給水ポイントとしての利用(253名) があった。エ)花 山地区との連携を図り、花山漁協のイベント 等に協力した。	ア)今年度も来観者に対して積極的なコミュ ニケーションを図り、リニューアル後の当施設 の見どころなど伝えることができた。 イ)河北新報や県政だより、栗原市広報誌に イベント情報を掲載し、ほぼ定員を満たすこ うであった。 ウ)当施設の情報紙「こもれびの森通信」をH Pへ掲載したほか、関連機関への配布と花 山総合支所の協力により、花山地区全世帯 への配布を行った。これにより、施設の情報 提供と施設利用の促進を図ることができた。	A	積極的にイベント等を企画し、広報や地元 紙を利用し情報を発信するなど、他の団体 等と連携しながら利用者へ広く周知が図ら れるよう適切に運営されたと認められる。 また、市内の保育園などのリピーターも多 く、来場者の満足度も高いなど質の高いサー ビスを提供している。	A
④自主事業の実施	ア)「こもれびの森」ウッドランドクラブを10回計 画したが、台風により9回の実施となった。また、 特番ウッドランドクラブを11回企画し、企 画通り11回実施し自然体験型イベントを行う ことが出来た。 イ)常設のクラブ体験コーナーでは、日常的に 職員による利用者への指導を行った。 ウ)野鳥写真展、季節の花写真を常設し、 パッチワーク展(9月)を開催した。また、季節 に合わせたキノコの写真(10月、約200点) の展示も行った。 エ)図書コーナーにビデオ機器を設置し、映 像による生き物の紹介を行った。また、図書 を利用した「絵本読み聞かせ」を幼稚園児を 対象に行った。	ア)各イベントでは、自然観察・野外炊飯・クラ フト体験等の他に、藍染め・ヨガ教室・バッグ づくりなども企画し、子供から大人まで楽しめる イベントとなり好評を得ることができた。 イ)来館者によるアンケート結果により、自主 事業の内容と職員の対応に関して高い評価 を得ることができた。 ウ)食品衛生責任者を置き、食品の安全な提 供をはかることができた。 エ)花山小学校協働教育のメンバーとして、 花山小学校主催の「さくら岡まつり」に参加し 地元住民、学校、各種団体と交流を深め協 働教育に協力した。	S	継続的に実施されている自主事業も含め て、各種イベントを積極的に企画するなど参 加者の増加に努めており、イベント回数を増 やすなど、更なる来場者の確保に向けた企画 ・運営が適正に実施されていると認められ る。 市街地から遠方にある施設ではあるもの の、今後もさらに自主事業の充実を図り来園 者数の増加に努めてほしい。	S
⑤利用者サービスの 向上	ア)園内・館内は日常業務として整備・清掃・ 点検を行い 利用者が満足して利用できる よう配慮した。 イ)クラブ体験コーナーは豊富な材料と、より 利用しやすい環境整備に配慮した。 ウ)職員の対応、展示物に対する意見等は口 頭又はアンケートから情報収集し、直ちに対 応するよう心がけた。	ア)入館者へ積極的なコミュニケーションを図 り、クラブコーナーの利用促進や館内、園 内施設(炊飯棟の利用など)のアピールを心 掛けた。 イ)昨年度同様に自動販売機の撤収による 不便さを解消するため、冷蔵庫で冷やした ペットボトル等の飲料水を提供した。 ウ)水辺の癒しを図るため、湿性植物園や小 川を整備し、また、水槽を設置し川魚や水生 生物の飼育と展示が好評であった。	A	園内及び管内の整備点検等を常に行うなど 利用者への利便性の向上に努め、入園者 に対する対応及び各種イベントへの参加者 がリピーターとして増加していることなど、利 用者サービスの向上が図られていると認めら れる。飲料水の提供に関しても独自で考え サービスを提供している。 また、屋内外の施設の清掃に努め、利用 者が気持ちよく利用している。	A
⑥利用者の苦情、 要望等の把握 とその反映	ア)入園者、イベント参加者へのアンケートを 実施し、期ごとに集計、分析を行い満足度 調査(評価)を実施した。 イ)アンケート結果を分析し、職員の対応や企 画内容、募集方法やPRの方法を改善した。 ウ)利用者の要望などは職員のミーティングで 共有を図り改善した。	ア)アンケートで「職員・スタッフの対応はいか がですか」の質問に対し、上期は回答者の 92%の方が「好感が持てる・普通」と回答。ま た下期は同100%が「好感が持てる・普通」と の高い評価を得た。 イ)来館者対応でのトラブル・苦情等はなかつ た。	A	利用者の満足度も高く、利用者からの要望 等に対する対応などについても、迅速かつ丁寧 であり適切であると認められる。今後も引 き続き利用者への丁寧な対応に努めてほし い。	A
⑦安全対策	ア)館内・園内の巡視を日常業務とし、来館 者の事故防止に努めた。 イ)イベント開催時には参加者の事故防止、 食中毒防止に特別の注意を払い、イベント 実施計画書に救急医療機関を記載して、緊急 時に備えた。 ウ)イベント実施時に協会の安全委員会より 安全パトロールを受け、参加者の安全の確 保についての外部(協会)評価を受けた。	ア)防災巡視を月ごとに実施し、危険個所の 早期発見に努めた。 イ)火災防止の為、園内に禁煙の掲示板を設 置。また熊出没注意の掲示を出して注意を 喚起した。 ウ)イベント開催時に防火訓練を実施するこ とにより、より実情に沿った訓練を行い、来館 者への安全を図った。	A	施設巡視による点検や危険周知といった 安全対策に注力し、クマ被害などの緊急時 における連絡体制の周知や安全確保対策を 図るなど、適切な管理運営体制により来場 者の安全確保に努めているものと認められ る。	A
⑧県民の平等利用	ア)県民の宗教・信条等を尊重し、利用来館 の制限をしないよう配慮した。 イ)県民(利用者)が自由に参加利用できるよ う案内やホームページ、広報等の文面に配 慮し、利用者への言葉遣いに十分気をつけ た。	ア)当施設を利用する県民(入園者)に不平 等な扱いはなかった。 イ)高齢者や障がい者に対しては、来館時に 必要な支援を行い、安全かつ安心して施設 を利用することができた。 ウ)入館拒否はなかった。	S	乳児から身障者まで広く県民に対して利用 を促すように考えられた運営内容であったと 認められる。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	県の評価 【施設所管課記入】		
			評価	評価	
⑨個人情報の保護	ア)個人情報保護に関する条例、及び協会が定めた指針により適切に対応した。 イ)特にイベント等参加者名簿、サポーター登録名簿等の管理は確実に行った。	ア)職員・サポーター名簿の事務所持ち出し禁止、職員以外の閲覧禁止を厳重に行った。 イ)参加者名簿を厳重に保管し事務所からの持ち出しを厳禁し、個人情報の漏れがないよう配慮した。	S	個人情報の保護に関する重要性を職員全員が認識し、適切な対応や書類の管理行われていると認められる。	A
⑩利用実績	ア)開館期間中の入園者は4747名(前年度5270名)であった。 イ)内訳は一般来園者3189名(前年度3228名)、団体利用者は1558名(前年度2042名)であった。 ウ)ウッドランドクラブと特番企画の参加者数も484名(前年度617名)と低減した。 エ)クラブ体験者は691名(前年1012名)であり、野外炊飯場利用者も786名(前年1281名)と団体利用の低減にひきつづられた。	ア)上期、下期とも入園者数は減少しており、前年に比べて90%で目標の5000名にも達しなかった。 イ)一般来館者はほぼ昨年度と同数だったが、団体利用が1558名で昨年度比76%と低減した。原因として今年度の異常気象によるところが大きいと思われる。 ウ)イベント(ウッドランドクラブと特番企画)も台風による中止(1回)と天候不順などにより昨年に比べて大きく低減した。	B	台風19号の影響等があったものの、入園者数並びに各種イベント開催の周知等により参加者がほぼ定員に達しているなど集客に対するの努力が認められ、広報や地元紙での宣伝が集客効果を発揮したものと認められる。 結果的に来場者数は、計画及び前年をわずかに下回ったものの、自主事業や広報活動は積極的に実施された。	A
⑪収支実績	ア)費用対効果を考慮した予算の執行に努め、無駄のない効率的な運営を図った。	ア)収支合計では18千円の繰越となった。 イ)人件費は5,195千円(予算5,240千円)で予算の範囲内に収めることができた。	S	事業計画に基づく適切な運用と経費節減に努めた。	A
⑫その他の取組	ア)栗原市以外からの来園者を増やすための広報活動。 イ)老人福祉施設の利用促進を図る目的で近隣約60ヶ所の老人福祉施設等へ森林科学館のパンフレットをダイレクトメールした。 ウ)県北部地方振興事務所、国立花山青少年自然の家、自然薯の館(道の駅)、との連携協働を図った。	ア)生物多様性を体験できる施設の整備に努めた。 イ)県北の自然体験施設として、仙台圏を中心に知名度の向上がみられた。 ウ)自然体験のフィールドとして、園内の木道の整備、一桧山県有林の歩道整備、また、リニューアル効果を高める館内展示物の充実を図った。	A	自然体験施設の場として広く認知され利用実績も良好であり、また施設内の体験活動の場の充実化を図るなど、さらに県及び市町村の関係機関との連携を図りながら事業と連動して実施が図られるなど、適切な取組が実施されていると認められる。	A
総合評価		昨年度のリニューアルを生かした運営とこまめな刈払いや園内のテーブルや椅子などの増設など園内整備に努めたが、天候不順や異常気象等により、団体利用者の極端な低減があった。ただ昨年度同様に展示物と展示内容については概ね好評であり、またイベント等の自主企画事業も事故等なく終了することができ、アンケートからも職員の対応について高い評価を頂いた。	A	台風19号の影響等がありながらも、計画どおりの実績を納められた。また、アイデアに富む自主企画も好評である。さらに施設をこまめに清掃しており、良好な施設運営を実施された。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	ア)建物の屋根・外壁塗装をはじめとして、LED化などの改修が行われたが、炊飯棟、外トイレ等の老朽化へも来館者の安全のため補修等が必要である。 イ)山菜葉草見本園、湿性植物園は日々の整備では十分な整備が行き届かない状況にあり、抜本的な対応が必要。 ウ)施設を紹介する案内看板も老朽化が目立つため、リニューアルなどにより施設の魅力度を上げることなどが必要と思われます。	ア)炊飯棟の木材やトイレ等について、修繕の計画を策定する。 イ)見本園・湿性植物園としての在り方や今後の維持管理の方法など、県・管理者を交えて検討している必要があると思われる。 ウ)案内板も含め外部への広報PR活動に重点を置き、当施設の利用案内等を更に広めていただきたい。